

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	北米神経科学会
※	日本薬理学会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本動物学会
※	進化学会
※	日本植物生理学会
※	日本がん分子標的治療学会
※	エピジェネティクス研究会、日本薬理学会
※	日本ウイルス学会
※	日本薬学会、日本結晶学会、日本蛋白質科学会
※	日本生物工学会日本微生物生態学会
※	日本エピジェネティクス研究会
※	日本蛋白質工学会
※	日本糖質学会、日本寄生虫学会
※	乳酸菌学会、畜産学会
※	日本薬理学会 SfN
※	日本動物学会、日本生物教育学会
※	日本RNA学会、日本筋学会
※	日本薬学会
※	日本エピジェネティクス研究会、AAI、ASBMB
※	蚕糸学会、動物学会
※	日本物理学会、情報処理学会、日本バイオインフォマティクス学会
※	日本RNA学会
※	日本薬学会
※	酵母遺伝学フォーラム
※	日本比較生理生化学会
※	日本動物学会
※	日本糖尿病学会、日本実験動物学会など
※	日本蚕糸学会、日本数理生物学会、時間栄養科学研究会、「細胞を創る」研究会
※	日本物理学会
※	日本血液学会
※	日本内科学会、日本内分泌学会、日本外科学会
※	日本人類遺伝学会
※	日本ウイルス学会、日本エイズ学会
※	ASCB
※	人類遺伝学会、日本眼科学会
※	日本動物学会
※	日本内分泌学会、日本産科婦人科学会
※	日本動物学会
※	日本エピジェネティクス研究会
※	筋学会
※	日本プロテオーム学会酵母遺伝学フォーラム
※	日本電気泳動学会
※	生物試料分析科学会 臨床検査医学会 臨床化学会
※	日本人類遺伝学会、エピジェネティクス研究会
※	日本ケミカルバイオロジー学会
※	日本ゲノム微生物学会、日本進化学会
※	基礎老化学会 放射線影響学会
※	日本実験動物学会
※	日本解剖学会
※	血栓止血学会
※	日本放射線影響学会、日本基礎老化学会
※	日本生物工学会
※	生体エネルギー研究会
※	日本動物学会
※	日本エピジェネティクス研究会、Society for Neuroscience
※	米国神経科学会、日本薬理学会
※	日本骨代謝学会アメリカ細胞生物学会
※	日本腐植物質学会、日本微生物生態学会
※	日本蛋白質科学会、日本進化学会、日本生物工学会
※	日本循環器学会

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	日本植物学会
※	日本動物学会、日本比較免疫学会
※	日本RNA学会
※	日本衛生動物学会
※	日本薬理学会
※	日本育種学会、ゲノム編集学会
※	日本循環器学会、日本心不全学会、日本循環制御医学会
※	日本血管生物医学会、日本動物学会、日本比較内分泌学会
※	日本ウイルス学会、日本獣医学会、日本熱帯医学学会
※	日本生物工学会
※	日本顕微鏡学会; 日本タンパク質科学会
※	日本進化学会、日本人類学会、日本霊長類学会
※	日本病理学会、日本臨床細胞学会
※	日本生理学会
※	日本繁殖生物学会 日本受精着床学会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本RNA学会、日本進化学会
※	ASCB
※	日本神経学会、日本認知症学会、日本神経化学会
※	日本ウイルス学会
※	日本衛生動物学会
※	日本薬学会
※	日本細菌学会
※	日本実験動物学会
※	日本応用動物昆虫学会、日本動物学会
※	日本RNA学会
※	日本蛋白質科学会、日本化学会
※	日本筋学会
※	日本獣医学会、日本解剖学会、日本アンドロロジー学会
※	日本血管生物医学会
※	日本蛋白質科学会 日本薬学会
※	日本糖質学会 日本メイラード学会
※	実験動物学会、繁殖生物学会
※	日本RNA学会、日本再生医療学会
※	日本動物学会、日本卵子学会、日本生殖医学会
※	日本植物細胞分子生物学会、日本バイオインフォマティクス学会、日本ゲノム微生物学会
※	日本血管生物医学会
※	日本植物学会
※	日本内分泌学会
※	日本蛋白質科学会、日本核磁気共鳴学会、日本糖質学会
※	日本薬学会
※	日本神経化学会、老年精神医学会
※	日本RNA学会
※	日本生理学会、日本栄養・食糧学会、日本糖尿病学会、日本肥満学会、日本内分泌学会
※	数理生物学会
※	日本ウイルス学会
※	日本RNA学会
※	日本人類遺伝学会
※	日本生物工学会、日本薬学会、日本質量分析学会
※	無所属
※	日本RNA学会、日本遺伝学会

質問5-2. シンポジウムについて <複数回答可> (テーマが偏っている)

回答者 番号	テーマが偏っている記述
※	動物関係の各論が多過ぎる。植物・微生物研究者離れが加速する。
※	講演者ありきでテーマが決まっている印象がある。
※	最近の研究の流行りに対応しすぎて、伝統的な研究分野も含めた、多様なテーマにして欲しい。
※	毎年、同じ顔ぶれによる似たテーマが多い。もっと広くテーマを求め、新しい演者によるシンポジウムが行われると面白い。
※	RNA関連が多すぎる。似たような内容のものは絞り、そのぶん、もう少し幅広いものも取り入れて欲しい。
※	シンポジウムで着目している分子や解析方法が偏っていたと思う。
※	オミクス解析の結果のみを発表するようなワークショップが多いように思えた。
※	狭いテーマが良い。
※	毎年同じメンバーで内輪で盛り上がっているシンポジウム、ワークショップの規制を期待します。
※	テーマが抽象的でメッセージが伝わらない。
※	ここを両論併記したのは、以下のような理由からです。テーマに関しては、適切なものもあります。しかしながら今年度だけではないが、シンポジウムの数がかなり拡散して多すぎるのではないか、というのが、この5年くらいの年回を見た率直な感想であります。
※	全体的には偏ってはいないが、ウイルス分野には偏りがあった。
※	「食の都福岡へようこそ！大いに食べて、大いに飲んで、大いに議論しよう」はやや下品に感じる。
※	例年似ている
※	Bacteria関連のテーマが少ないように思います。
※	似たような話題が多いと感じたが、自分の興味がある分野が少なかった。

質問5-6. シンポジウムについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	海外講演者がたくさんいたのはとても良いことだったと思う。予算的に許せるならもっと増えると良いと思うし、ぜひ継続していただきたい。
※	ワークショップとの違いがわからない。
※	今回はテーマの興味の関係ですべてシンポジウムではなくワークショップに参加しました。
※	地方大学の研究者にとって、海外からのシンポジストの講演はなかなかチャンスがないので、増やしてほしい。
※	テーマが代謝関連に偏っている印象を受けました。しかし、代謝分野偏重という現状がこの分野の縮図であるならば、それは適切だろうと考えられます。
※	英語にしたければ国際学会にすれば良い
※	科学研究の発表については、できるだけ全ての発表を英語にすることを目指していただきたいと思います。科学研究の周辺の内容(ポスト、ハラスメント、研究不正、etc)は必ずしも英語でなくてもいいとは思いますが、そのようなセッションにおいてすら、日本以外の演者の参加はさらに望ましいと思います。
※	海外ゲストの渡航費補助はいいシステムだと思いました。普段分子生物学会で見ないようなビッグネームが多く見られたので良かったです
※	海外からの人は英語でいいが、日本人が英語をしゃべる必要はないのでは
※	国際化をうたうのであれば、海外からのシンポジストの数はもっと増やした方がいいと思う。
※	多すぎると思う。シンポジウムは厳選されたテーマを2件/日ぐらいでよいと思う。
※	英語セッションが多いのは、とても良かったと思う。今後も英語枠を増やすことが、海外からの演者・参加者の増加、および大学院生・ポスドクの教育およびキャリア選択肢の増加(留学先の選定など)に良い影響があると思う。

質問6. ワークショップについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	テーマが動物関係の各論が多過ぎる。
※	日本語でやるべきだ
※	20代ぐらいの若い人の発表は活き活きしていて、すばらしいが、質疑応答が全くできない子が何人か続くと、さすがに聞いている側の気分が減入る。もう少しトレーニングしてから臨んでほしい。
※	ワークショップのオーガナイザーをやったが、一般演題からの複数演題の採択が必須ということだったが、結果的に応募がなく、演題数が少なくなってしまった。一般演題からの採択の有無・採択数はオーガナイザーに一任した方がよい。また、同じような領域のワークショップが同じ時間に設定されている場合もあり、聴衆の争奪になっていた。できれば、事前調整等をした方がよいかもしれない。
※	一人の持ち時間が長いワークショップがある一方、持ち時間が短いワークショップは廊下でディスプレイを見ている人がいました。ワークショップの場合、一人の持ち時間が長いと、他のワークショップと行き来が出来ず、関係が深い分野の人しか聞きに来ないと思ったので、一人の持ち時間を制限したほうが良いと思いました。かなり早口の英語で発表される日本人の発表者の人がおり、それを他の分野の人は長時間聴くことは選ばない(退席する)のだらうと感じました。
※	一般演題が2題以上という制約は外してほしい。応募数が少ない場合、選択ができないからである。
※	いつもよりセッション数が多めだったと思うが、それがむしろ良い方に効いていたと感じる。
※	内容の偏りが感じられました。
※	セッションの数を増やしてほしい。魅力的なセッションが少なかった。
※	学生やポスドクなど若い研究者が口頭発表できる場を設けた方がよい。
※	一人当たりの講演時間をもう少し長くしてほしい。
※	採用数が多く、時間がかぶっている。小さくしてほしい。
※	公募しているとは思いますが、テーマや座長などの選択基準がよく分かりませんでした。
※	一定時間で行わなくてもよいと感じた。演者は厳選すべきだし、必要なら長い時間の演題があってもいいようにしてほしい。
※	少しRNA関連のテーマが多く、重複しているように感じられた。
※	日本人は日本語でやって欲しい
※	今回、若い方や女性がたくさん座長をしていたのが印象的でとても良かったとおもいます。座長がかわれば、内容もかわってくるので、その効果もあり「ネクストステージ」を感じることができました。また、全体的に一般演題からの採択で面白いものが多かったので、今後も一般演題からの採用を続けて欲しいと思いました(来年は一般演題からの採択がないということで残念です)。
※	部屋から聴衆があふれ、通路のモニターにも聴衆があふれる状況は、いつどの都市で開催されても改善が見られずに残念である。別室が用意できないのであれば、臨機応変にモニター数を増やすとか、誘導係のアルバイトを配置して交通整理するとか、なんとかできないものか。加えて、ランチョンセミナーやフォーラム待ちで列をなす人たちの話し声がうるさくて開け放った扉のなかで進行中のシンポジウム・ワークショップが聞けたものじゃない部屋があった。これも誘導係を置けば済むし、そもそもうるさい研究者自身の自省も必要なのではないか。
※	ワークショップ選定のテーマも偏っている
※	聴きたい話題が重なる場合があるので、内容的に似たWSは時間帯をずらして欲しい。
※	一般演題からの採用でワークショップで発表をさせていただいたが、9分間の発表時間は短く感じた。自分が参加したセッションに限った事かもしれないが、全体的に日本語に比べると英語のセッションの聴衆が少ないように感じた。
※	RNA 相分離を扱うワークショップが多かったわりには、それぞれにまとまりがなかったので、数を減らすまたは、テーマをもう少し絞ったものにする方が良かった。例年のことだが、似通ったワークショップが同時に開催されていた点は困った。
※	私が参加したWSに関しては演題数は適切だった。しかしどの講演が一般演題からの採用なのかを知らず、意識もしていなかった。演題数の1/3は一般演題から採用するくらいの目安がいいだろう。ただしテーマ、分野によってはむずかしい事も承知している。
※	ワークショップに関しては、シンポジウム以上に感じることであるが、テーマ・セッションの数が多すぎるのではないかと、率直な意見であります。まあ、この学会がかなり広い領域をカバーしているのは確かなのですが、これだけの数がありますと、聴衆が拡散傾向にあるように思えます。それから、ワークショップのオーガナイザーのテーマの選定も、自己アピールの場という
※	一般演題からのピックアップをもっと増やすべきでは、
※	建物が違う会場はちよつときつかった。特にポスター会場の2階の会場は、国際会議場からはあまりにも遠いので、かわいそうだった。
※	僕はワークショップ落とされたので次回をお願いします。
※	セッション名と関連が薄い演題が散見された。
※	セッション数が多すぎて、同一時間に類似テーマのセッションの重複が多かった。
※	シンポジウムにまして多すぎると思う。シンポジウムのテーマと重複しないよう、あるいはシンポジウムでカバーできない分野を学会が選んで開催する。会員が自主的に開催するワークショップは、コアとなる時間帯以外(10時前や17時以降など)に別に開催すればよい。
※	ワークショップの応募数が多く、夜のフォーラムに回った企画もあったと伺いました。日程を長くしたり会場数を増やすのではなく、夜の時間帯を有効に活用することは今後も検討して良いと思います。
※	英語セッションが多いのは、とても良かったと思う。今後も英語枠を増やすことが、海外からの演者・参加者の増加、および大学院生・ポスドクの教育およびキャリア選択肢の増加(留学先の選定など)に良い影響があると思う。セッションの全体数は多すぎると思う。学会が巨大化しているので避けられないかもしれないが、同じテーマが同時時間帯に設定されたりするなど、問題が大きくなってきていると感じる。
※	150分と90分バージョンがあっても良いかと思いました(2018年@横浜のように)。

質問6. ワークショップについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	満員で入れない、または着席できないワークショップが多くありましたので、人数を読むことは困難と思いますが、もう少し広い会場だとよいと思いました。また、ポスター会場のワークショップ会場からの移動がなかなか遠くて聞きたい話題を話しごすることが難しかったので、近くに集約しているとありがたいと思いました。
※	シンポジウムはともかく、ワークショップは日本語を主体で行って欲しい。
※	内容が重複したセッションが多すぎて、しかも同じ時間帯に進行するので逃したトークが多い。一つの大きなセッションにすべきでは？特にオーガナイザーだったりするとあっちこっち行けないので裏番組は完全に逃します
※	指定演者に女性を入れると優先的に採択されるという条件が応募を消極的にしています。
※	英語の発表も大切だが、日本語でしっかりとした議論をすることも重要だと思う。

質問7. ポスターディスカッサー制について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	わざわざディスカッサーなる奇怪な和製英語を作り出してまで人を送り込まなければ議論にならないような研究はそもそも議論する必要がない。
※	盛り上がっているポスターにディスカッサーが来ると3分の時間制限のために内容の無い発表となり、弊害しかない。さらにディスカッサー移動の館内放送がうるさく、他のポスターでの議論を大いに妨げていた。この方針ならばこのディスカッサー制は無い方が良い。
※	参加しなかった
※	まわってこなかった
※	分野の合わない先生にお越しいただいて申し訳なかった。個人的にディスカッサーは不要なので、希望制にすればよい。もしくは学生のところにだけ行けば良いと思う。
※	ディスカッサーと会うことが出来なかった
※	6分毎に、長々と放送が入るのは、うるさかった。せめてチャイムなどにして欲しかった。
※	ポスター発表の自由度という意味では、ディスカッサーは要らない。
※	ディスカッサーを担当させて頂きましたが、ディスカッサー無しに盛り上がっているポスターが多数ありました。そこに入るのはむしろ邪魔になると考え、議論があまり盛り上がっていない演題のみを回りました。
※	ディスカッサーさんが気をつけて前半に奇数番号、後半に偶数番号を回ってくださっていたようだ。担当のポスターがかなり広範な内容にもかかわらずいろいろ質問されていてすごいなと思った。
※	放送の音が大きく、ディスカッションの音が聞き取りにくかった。
※	ディスカッサー主導のコアタイムを設定するのは構わないが、結局、発表者は何時から何時までポスター前に立っていればよいのか最後まで理解出来なかった。従来通り、偶数・奇数の二部構成の方が分かりやすいと思う。また、ディスカッサーの質(というか、やる気)の差がポスターセッション間で激しく、ディスカッサーの意義が「ポスター発表をサポートする演者を防ぐ」目的以外の意義を見出せなかった。
※	ディスカッサーは議論の邪魔になるだけで有害無益と感じた。時間も短すぎるし、そもそも自発的興味ではなく強制的に聞きに行くことに何の意味があるか全く理解できない。このような問題点はやる前から当然に明らかであるのに、なぜ導入を考えるのか意味不明。今後は絶対に採用しないで欲しい。担当する側にとっても大きな負担になり、学会の活力を削ぐだけである。
※	ディスカッサーが他の聴衆の話を遮ったという話を聞いた。ディスカッサーが来なかったという話も聞いた。ポスターにディスカッサーを導入するには、人が来ないポスターを対象にするのが良いと思う。
※	指導学生は、ディスカッサーが来るのを待っていたが結局発表時間が終わっていても来ませんでした。いつまで待機していればいいのかはじめて学会に参加する学生は戸惑うので、来ないこともあることを明記してほしいと思います。
※	ポスター会場内で流れるディスカッサーへの案内アナウンスが多すぎた。ポスター発表の妨げになっていた。
※	全課題にディスカッション時刻が割り当てられたのは完全な失敗である。ディスカッションセッション毎に全ポスターの参加者が順次動くのでなければ、すでに説明や議論の行われているポスターがあると、これを放置するか、無理にそこに参入するしか無く、こうした行為は、この形式の目的、あるいは、ポスター発表の良さを壊すことになる。また、ディスカッサーにどのような権限が与えられているかも不明な状態では、こうしたやり方自身が不完全なものになる。
※	貼り逃げを防止するためには有効だと思いました。ディスカッサーに優秀ポスター賞を選択する権限をつけても良いと思います。
※	ディスカッサー制により全体的に活発な議論がなされたというよりは、議論が盛り上がっていない演題にも注目する時間を設けることができ、救済措置的な意義があったと思う。でも、議論があまり盛り上がっていない演題のみを重点的に適宜回るという考えには賛同しない。
※	演者と聴衆が議論で盛り上がっているのに、ディスカッサーが割り込んで来て一から説明を求められた。いい雰囲気は台無しになった。
※	ディスカッサーの登場によって議論をぶった切られるケースを多く見かけました。盛り上がっていない演題を重点的に、といっても演題の選択が難しいでしょうし、ディスカッサーの先生も個人的に話を聞きたいポスターがあったかも知れません。あと、ポスター会場で大音量のアナウンスが頻回にあり大迷惑でした。ディスカッサー制は廃止してはどうでしょうか。
※	3分でポスターを説明するのは、要約をするための良い訓練になると思います。
※	ポスターディスカッサー制を売りこいた割には、時間通りに始まらなかった。
※	ポスターは発表する側、聴く側ともなるべく自由なほうが良いかと個人的には思います。ポスターの展示時間が短かすぎるように感じるので、改善は難しいかもしれませんが、なんとかなればと思います。
※	ディスカッサーは必要ないと思う。
※	ポスター発表者と議論している最中に、ディスカッサーが割り込んでくるケースがあちこちで見られた。ディスカッサーは、多くの人の時間と労力を無駄使いしている。
※	すでに誰かと議論中であれば、ディスカッサーはサポート的な役割のみでよいと思いました。
※	ディスカッサーと聴衆がきているのに発表者のいないポスターがいくつかあった。時間が決まっているため、ディスカッサーの先生の貴重な時間が無駄に過ぎていた。反対に、すでに盛り上がっているポスターのところにディスカッサーがきたため、また最初から説明し直しになっているポスターもあった。ディスカッサーは聴衆が途切れたポスターを優先的にまわり、議論が盛り上がっているポスターにあえて入り込む必要はないと思う。その意味で、時間を決めてまわる制度はよくなかったと思います。
※	ディスカッサー役を引き受けましたが、務めだと思って行ってみたら、ディスカッサー側にも思わぬ発見があり、ディスカッションが楽しかったのも、双方にためになりました。ディスカッサー側からすると、ポスターに先客がいる際に、それを押しのけてディスカッションすべきかどうかの判断が難しく、それを避けて空いているポスターから順にこなしていったところ、時間オーバーしていたこともあって最終的に10枚中2枚から発表者がいなくなっており、申し訳ないことをしました。
※	数分程度の説明の後で議論があるのかと期待していたが、分野外の為かディスカッサーからの有意義な質問もなく終了したのでディスカッサーの必要性が全く感じられなかった。

質問7. ポスターディスカッサー制について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ディスカッサーが盛り上がっているポスターに割り込んで説明を要求するというのを自分も含めて複数の人が経験しました。
※	ポスター会場の放送は音が大きく苦痛でした。時間配分を多くの場合誰も気にしていなかったと思います。時間配分は目安で良いのではないのでしょうか。
※	適切なディスカッサーが配置されていない事例をみた。
※	ディスカッサーいない
※	担当ディスカッサーが来なかった。
※	「それでは聴衆の皆さん、質問をどうぞ」と振るだけなのは果たしてディスカッサーと言えるのだろうか？司会係なら必要ない。ディスカッサーの役割について明文化したらなお一層良いと思った。
※	ディスカッサーを担当しましたが、発表者が不在だったり時間を守らなかつたりするなど時間通りの運用は難しかったです。また、議論が盛り上がっているところに割って入るのは難しかったです。
※	演題発表の妨げになり得るので、やめたほうが良いと思う。
※	ディスカッサー制はよくないとは言わないが、必要とは思わない。当年会は規模が大きく、議論も活発である。以前、ディスカッション中にもかかわらずディスカッサーが割って入ってきたことがあり、この制度の趣旨に添わない状況があった。ディスカッサー制はなくてよい、もしくは、必要以上に回る必要はないと思う。
※	ポスター発表をしていないのでディスカッサー制の良否は判断できないが、以前にディスカッサーを務めた経験からは良い制度だと思う。
※	議論が盛り上がっているポスターが多く、ディスカッサー制はむしろ邪魔だった
※	学部学生や、希望者のみディスカッサーを割り当ててもいいかもしれない。ディスカッサー制はいい面、悪い面が半々くらいで、評価しにくい。
※	ポスター発表したがディスカッサー以外からの質問が多くディスカッサーとは議論する時間はなかった。
※	ディスカッサー制には異論はないが、ヒトが混雑していて、ディスカッションがほとんど聞き取れなかった。
※	ここについては、毎年いろいろな試みをされている印象があるので、そのことには、運営者に敬意を表します。ただ、ポスター発表の良いところは、決められた時間内に自由に討論できるところが良いところだと回答者は思いますので、ディスカッサー制は取り入れなくてもよいのでは、というのが意見でございます。
※	ディスカッサーによる差が大きいと感じた。討論を活発に行う、学生の発表を支援するなど、貢献する方と、そうではない方がいた。実際に、ディスカッサーによる討論時間いっぱい行われていないエリアもあった。例えば、ディスカッサー制度を受ける希望を発表者が選べるようにし、ディスカッサーは人選をしっかりとすれば、効果的に行えるかもしれない。
※	ディスカッサーの周りの数人しか聞こえないので、盛り上がらない印象だった。工夫が必要だと思います。
※	ディスカッサーに入ったが、基本的には良い。時間区切りのアナウンスも悪くない。ただ、1番から10番まで順にやるという話であったのに、どうやるかはきちんとアナウンスされていなかったため、時間になってもいない発表者がいたり、また、3分で話すことを準備していなかった演者が多く、時間のコントロールも難しかった。それと、聴衆が既にいるポスターへの声かけはタイミングが難しく、放置する手もはあったが、単に知り合いと話し込んでいる場合もあって、他の聴衆のために切り込んだ。ディスカッサーが来たときには本番の発表と思って、優先するように、との事前指示があっても良かったと思う。
※	担当の方にとっては、うまくカバーできずに重荷になる場合も見受けられますので、発表者側で選択できるようにされるのは如何でしょうか？
※	ディスカッサーの配布物に、時間などの設定や詳しい指示が含まれている方が良かったと思う。アナウンスで全体を仕切るの少し無理があるのではないかと思います。
※	ディスカッサー主導のコアタイム時、たまたま込んでいたので、コアタイムでないときに来てくれてディスカッションをしてもらえてよかった。
※	途中で割って入ってきたり、時間がないため途中でいなくなったり、かえて邪魔なだけである。
※	ディスカッサーが担当を忘れているなどがあった。演者が熱心に話し過ぎて時間配分が困難な場面もあった。盛り上がっているポスターは担当しなくても良いと思われた。会場アナウンスはしなくても良いと思った。
※	時間通り行えないのであれば、ポスターディスカッサー制はやめるべき。遅れる旨、遅れた詫びのアナウンスが全く無く、10分以上遅れて何事もなく開始とかありえないだろ。
※	学生に対してディスカッサーはいた方が良いと思うが、以前に比べて学部学生や大学院生の比率が減った気がする。教授クラスのポスター発表も多く見られたが、そこにディスカッサーが必要なのはやや疑問。
※	止めた方がいい。時間の無駄
※	そもそも発表者がいないポスターがかなりあった。「～題目の発表を開始して下さい」のような会場内のアナウンスがうるさく耳障りだった。
※	ディスカッサー制は良かったが、担当の時間に発表者がいないことが多く、聞きたいポスターの説明が聞けないことがあった。また、ディスカッサーと発表者のみの場合があり、発表者が少しかわいそうに思えた。なので、私の専門外の発表でも参加させて頂いた。
※	若手の教育という意味では、限られた時間で上手に説明する、という訓練は必要かとも思う。
※	必要性を感じない、廃止してほしい。
※	初めてディスカッサーを務めさせていただき、良い点とやりにくい点がありました。良い点：発表者の皆さんに楽しそうに発表していただけた。ディスカッサー一人を相手に発表を始めても、それが呼び水になって盛り上がるがあった。困った点：すでに盛り上がっているポスター発表に対してディスカッサーが必ずしも入っていくべきなのか、迷うことが有りました。その場合にはディスカッサーは質疑応答に加わり、時間が限られているのでゼロから発表していただくことはしませんでした。初めてディスカッサーをする方もおられると思うので、柔軟に対応するようご依頼されると良いかと思えます。

質問7. ポスターディスカッサー制について <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	今年、ディスカッサーをやらせていただきました。決まった時間の時に既に他の方と議論をしている演者を止めてしまうことができませんでした。人がいないところから回りました。ただ、なかなか区切りがつかないところを待っていて、すべての演者と議論をした場合、指定の時間には終わりませんでした。その後の自由討論時間には終わりましたが、ディスカッサー制自体はいいと思います。ときに誰も来ないで学会が終わることも自身のときにはあったので。ただ、何か変化が必要だとは思いました。
※	発表者のテーマに興味関心がない研究者とディスカッションを強いるような制度は不要だと思います。
※	態度の悪いディスカッサーも見受けられた。もっと、意義をはっきりさせるべき。
※	ディスカッサーがいつになっても、ポスター前にこなかったか、来ていたかもしれないが、わからなかった可能性がある。ディスカッサー制は、良いと思うが、もっとしっかりやった方が良いと思う。
※	学生等研究経歴が浅い発表者のポスターを重点的にディスカッサー制度の対象としても良いと思った
※	ディスカッサーは、若手PIやポスドクに任せても良いと思います。
※	ディスカッションしてるのに邪魔するなみたいな感じの人がそれなりの割合でいるので毎回つらい思いをする。
※	ディスカッサーが発表者を探すシーンが見受けられた。全部回ることにしているディスカッサーが待っていたりしてかわいそう。
※	恐らくずっと聞く人がいたので、ディスカッサーは私のところを飛ばしたのだと思いますが、それで構わないと思います。
※	発表者が待機しているにもかかわらず、3P-〇〇〇〇ではディスカッサーが現れなかった。さらに、そのことに関する何のアナウンスもなかった。この様なことではディスカッサー制度は無意味である。真摯なディスカッサーの選択をお願いしたい。
※	関連するポスター発表に、ディスカッサーは発表時間内に来なかった
※	時間が短く慌ただしかった。時間を決めなくてもディスカッサーの臨機応変な判断に任せたら良いと感じた。以前にも活発に議論しているところは後回しにするなど、状況を見て回ってくださる方に当たるが多かったので、無理に時間や順番を決めることはないと思った。

質問8. 一般演題全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ポスター時間が長いのと、ちょうど昼時だったこともあり、昼食にでかける人が多かった印象。
※	ワークショップに採択されたらポスター発表は免除してほしい。
※	4日目が消化不良
※	編成に余裕があるのは良いが、最終日に参加者が減ってしまう傾向が残念。
※	最終日のポスター掲示時間が短かったのが残念
※	発表が最終日であったため、学会会場に訪れる人数が少なく、期待した聴衆との議論ができなかったと感じている。演題提出の際に、〇〇日目希望という項目が欲しい(必ずしも要望通りにならなくとも、要望は伝えておきたい)。幅広い背景の研究者と交流できるのが、貴学会の良い点と考えており、その効果が得られないのであれば、演題を出して参加する価値を感じない。また、今回は福岡開催と言うことで、関東や東北地域の参加者が少なかったように感じた(個人的な知り合いがたまたま参加しなかったのかも知れないが)。神戸と横浜に固定で良いと思う。
※	実行委員会がポスター発表者の中からワークショップに採用というか推薦し、発表者がこれを承諾したら、ポスター発表しない方式が良い。
※	同じ分野だったらポスターとワークショップの日が同じ日か、翌日になるように設定していただけると助かります。
※	会場の問題だとは考えられるが、ポスター発表が4日にわたるのは避けて欲しい。他方、その分、1日のポスターセッションの時間をより確保して欲しい。
※	ワークショップで発表してもポスターを貼る制度はとても良いと思います。1日限りの掲示ではなくて、1泊2日が良いと思います。
※	平日のみで4日間は長い。そんなに大学を空けることが、多くの教員にとって不可能ではないか。
※	ポスターにもっと重点を置くべきだと思います。ただ拝聴しているだけで興味のない演題では時に眠くなる口演よりも、好きな演題を選んで十分議論できるポスター発表の方が圧倒的に有意義と思います。また、ポスター発表者からすると、奇数・偶数の2大別ではなく、3~4大別くらいの方が話を聞き逃す確率が下がるのでいいです。
※	ポスターからワークショップにも採用されたが、ポスターセッションの後にすぐに、ワークショップが開始されて忙しかった。特に、ポスターは日本語で、ワークショップは英語での発表となり、時間は無いこともあり、自分の中での言語の切り替え、準備が難しかった。また、ワークショップに採用された方はポスターは免除で良いのでは？
※	期間は3日間で良いと思います。
※	そもそもワークショップの課題名がよくわからなくて、どれが自分のテーマと合致しているのかわからなかった。わかりにくいカタカナ英語(浸透しているものはないと思うが)で課題名をつけるのはやめたほうがいいと思う。学生や研究者じゃない方々にもわかるような、タイトルをつけるべき。
※	普通の口頭発表の場がない。再開して欲しい。
※	本学会に限らないがポスタープレゼンマナーについてどこかで啓発してほしい。「一人で発表者を独占しない」「同窓会の場にしない」、訪問する側の場合、学生の発表には(初めての人もいるので)できるだけ激励するような内容のコメントもしてあげてほしい。
※	ポスターからワークショップに採択されること自体は悪くないが、(短い発表が中途半端に入り込んで統一性がなくなっていたセッションも含めて)あまり必要がないようにも思いました。
※	似たようなワークショップが同じ日の午前中や午後集中する傾向があり、もう少しばらしてほしかった。
※	最終日の午後のシンポジウムを聞けないまま帰らなければいけない人が多かった。最終日のポスターを別の日に合わせるか、ポスターセッションの時間を短くしてもよいという意見を複数から聞いた。
※	三日間ですべてのプログラムを終わる方が好ましい
※	夕方以降のプログラムは行わない方が良いと思います。
※	ポスターセッション前にポスターを見る時間が限られていたので(シンポジウムなどを聴講しているため)、もう少し午後遅めにずらしてもらえると、余裕をもって臨めたと思う。
※	英語はあってもいいが、むやみに増やす必要はないのでは日本分子生物学会なので、世界的に見たら、ローカルな学会でいいと思う。
※	4日間は長すぎる。せめてポスターは3日間で終わって、たくさんの人に見てもらえるようにしてほしい。
※	いつも自分の関連テーマが最終日になるのは意図的なものを感じます
※	ポスター発表からの採択数を増やして、学生に発表のチャンスを与えて欲しい(例えばショートトークなどでWSに1-2題の枠を割り当てるなど)。
※	偶数・奇数の切り替えのタイミングとディスカッサーとの議論の時間がわかりにくかった。
※	4日目はどうしても参加者が減ってしまうのでどうにか改善できないだろうか。
※	自分のポスターではナマの植物を展示したのですが、発表日が3日目だったので、研究室から持ち出してから時間が長くなり、だいぶんおれてしまいました。申し込み時にどこかで事情や希望を記入する欄があるとありがたいです。
※	ポスター会場が狭く、回るのに一苦労でした。
※	振り分けはいいが、4日やるなら、ポスターは二日連続貼りっぱなしを2回にした方がよいとは思った。もちろん会場の問題はあるのでしようが、いろいろ工夫すれば、できなくはなかったのではと思います。
※	年寄りにはプログラムがタイトでした、、、
※	最終日の午前中のポスターは良くない。ランチョンセミナーが少ない。
※	ポスターセッションの時間は良いが、奇数、偶数の振り分けをはっきりしてもらいたい。隣のポスター演者とぶつかる。
※	ポスター会場が少しせまかったように思います。
※	参加していないのでコメントなし
※	3日間で良い
※	最終日午後に参加者が少なくなることについて、プログラム編成の面から改善・解消できないでしょうか？(目玉企画やシンポジウムを最終日午後にするなど)。
※	同系統のワークショップの時間が被っており、両方を聴くのが困難である

質問8. 一般演題全般について <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	ワークショップを企画したが応募者を採択することによって、最も聞きたい招待講演者のトーク時間が短くなったのが大変残念であった。
※	転写やクロマチン、翻訳制御などの基礎研究のワークショップの日程が最終日に集中しており、少し残念でした。転写やクロマチンの分野は海外では、かなり人気があり、注目されている分野ですので、ぜひ、今後をご検討頂きたく感じました。
※	ポスターはディスカッションしているとあまり件数が回れなかった。ポスター後のワークショップに出にくいので、時間を逆にしてほしい(ポスターを最後にしてほしい)。

質問9. 年会会期中の各日のタイムテーブルについて(※) <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ワークショップの時間帯の配置の偏りで、日中に無駄な時間が空く。また、並列で複数のワークショップを進めるため、重複して聴けない発表が多かった。ポスターセッションとかぶってもいいので、ワークショップ(口頭発表)の重複を少なくしてほしい。
※	英語デーについては知らなかったし、気づかなかった。ワークショップなどの主催者が使用言語を決めているのかと思っていた。
※	ポスター会場と口頭発表場の距離が遠すぎて、移動が大変だった。会場間の距離が離れているときは、ポスター発表の時間を(口頭発表の合間に設定するのではなく)午前中や夕方のどちらかに偏らせてくれた方が、各演題に集中できると思った。ポスター発表時間帯を会場毎に輪に応答に設定して欲しい。
※	日本語でやるべきだ
※	午後の時間(ポスター発表)前後が間延びしたように思える。ポスターは最後までもいいと思う。
※	本会が英語で発表・討議される方向に進んでいることはよいことだと思っていますが、英語デーとして同じ日に英語の講演を集めることの意義はよくわかりませんでした。英語デーを作ることでどのような効果があったのか、もしわかれば、会報などでお知らせいただくと参考になります。
※	英語の使用は、発表者に一任してほしい(言語の自由化)
※	無理に英語デーを作る必要は無い。個人的に、英語セッションは苦にならないが、やはり、現時点では大部分を占める英語がそれほど得意でない大学院生などが、ワークショップなどで積極的に発言できる機会を確保することの方がより重要である。フィールドが異なるので直接の比較は難しいが、一度、英語、日本語各セッションの若い参加者によるディスカッションの活発さを比較して判断すべきである。
※	シンポジウム、ワークショップごとに日本語と英語を混ぜても良いと思いました。
※	自分の専門以外の内容を英語で聞いて理解することは難しい。国際化は細分化された学会等で実施するのは良いが、様々な分野の研究者や学生が聞く分子生物学会で取り入れるのは、他の分野との融合を阻害している気がする。
※	英語デーや英語限定セッションを設けていますが、日本語でろくに議論ができない人に英語を求める必要はない。
※	結局聞かないとおもいます
※	ポスター発表は、午後の最後の時間帯の方が良いと思った。
※	日本の学会なので、発表者及び聴衆が日本人と想定されるものでは日本語だけのほうがいい。
※	海外からの招聘者のことを考えると、英語デーというのはよかったですと思います。ただ、学生が大舞台上で発表する初めての場として分子生物学会が選ばれることも多いと思いますし、英語だとディスカッションの質が低くなってしまっている演題もありましたので、英語デーは1日のみにして、これ以上は増やしてほしくないです。
※	常にどこかの会場で英語のシンポジウムが行われるのは、とてもよいと思う。日本語のセッションしかない時間帯があると、海外演者や海外からの学生、ポスドクが聞けるものがなくて困っていた。
※	特になし
※	できれば全部英語にするのが好まれます。今時英語だと理解が云々と言うのは時代遅れかと思えます
※	4日間は長かったです。
※	ポスター発表は夕方のほうがよい
※	英語での発表自体については問題ないが、議論が深まらなかったときもあるので、言語のしぼりは臨機応変に変えたほうがよいかもかもしれない。
※	英語を排除する必要はないが、言語自体より内容を理解することの方が大事なので、英語問題はまた、別課題として考えた方がいいのではと思う。ちなみに私自身は英語の発表を聞く程度は問題ありません。
※	英語のワークショップを集めてしまったせいか似たようなテーマが同時開催になってしまっていた。また、海外からのゲストにとっても均等に(ばらばらに)英語セッションが配置されていたほうが、聴きに行けるセッションの選択肢が増えて良いと思った(自分が発表する時間に他の英語セッションが開催されていても聴きに行けないわけだし)。英語が苦手な方にとって「英語デー」とするよりも日本語セッションの選択肢があったほうが良かったのではないかと思った。
※	少し似通ったテーマで同じ時間帯に設定されたセッションがあったように思います。色々難しいとは思いますが、できる限り近いテーマのものは重複しないように配置されるとありがたいです。
※	部屋の大きさ・配分がどうにかならないのか。学会ITシステムでは各演題に対してスケジュールチェックマークを付ける機能があるのだから、モニターの増設などある程度事前に予測できるのではないだろうか。またシンポジウム・ワークショップ参加者数は各部屋ごとに算出しているのだろうか。数年分蓄積したデータがあれば、分野やトピックによっては聴衆数を予測できるのではないだろうか。
※	日本の学会なのに英語にこだわることは如何なものか
※	英語と日本語が混ざるのは一見折衷案で両方使えて良いように見えるが、実際は、中途半端で、無駄が多い印象を受けた。英語化を目指すのであれば、徹底するべきだと思うし、日本人同士の情報交換と意思疎通を優先するのであれば、むしろ日本語の発表のみにするほうが、質が上がると思う。それぞれの規模を小さくして、会期中に英語の会(国際学会)と日本語の会(国内学会)に分けて開催することはできないのだろうか?
※	聞き手にとっては講演が英語化日本語かの差はあまりないと感じている。講演者の中にはハードルを感じる方はおられるだろうから座長の手腕が問われる。
※	会場が離れていたため、ポスターセッション後午後のワークショップを始める前にもう少し時間の余裕がある方がよい。
※	英語のワークショップを特定の日に固めるのは致し方ないところもあるかも知れないが、逆に、それ以外の日の外国人参加者には不都合なところもあったかも知れない(我々にとっては1日目の英語でのワークショップが盛況という逆に嬉しい効果ではあったが)。
※	年間に参加していないので、今年度のことは何ともいえないのですが、私は国内学会は、言語は日本語で良いのでは、という立場です。もしどうしても英語導入、ということならば、スライドやポスターの言語を英語にするだけで、充分なのではないかと思えます。
※	ポスターを含め、全セッションを英語にしたほうがよい

質問9. 年会会期中の各日のタイムテーブルについて(※) <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	2日目に英語の演題を集めたのは、良いアイデアのように思ったが、その一方で、類似のテーマのシンポジウムやワークショップが、同じ時間帯に重なったようにも思われた。また、英語の演題には、海外からの招待者や意欲的な企画が多い傾向にあるので、その点からも、2日目に興味深いものが集中する傾向があるように感じた。
※	新学術との共催企画をどのスケジュールで入れるのかは判断が難しい。最終日に持ってきて参加を促すか、あるいは中日に入れて盛り上げるか。。。ところで、共催ということで領域側とスケジュールに関する打ち合わせはあったのだろうか？
※	「日本」分子生物学会で日本語で議論を推奨しないのはなぜですか？留学生は日本語を取得を目的に来ています。
※	英語の講演があったのは全般には良かったが、良くわからない英語の発表や、英語にしたがために簡単な内容しか話さない発表者も見受けられたのが残念だった。英語が不得手な人は無理に英語にしない方が(聴講者にとって)良い。
※	英語セッションを集約させる必要はない。
※	ワークショップ(?)によっては時間が遅すぎると感じる場合もあった。聞きたい演題があったが、時間が遅いために欠席した演題が難題があった。高校生の発表を是非聞きたかったが、帰宅の飛行機の都合で、高校生のポスターしか見られなかったのが残念です。高校生の発表時間も早めて欲しい。
※	参加していないのでコメントなし
※	口頭発表を復活させては。
※	日本人のためというより国外参加者は英語が固まっていた方が便利なのかなと思いました
※	出席しておらずわかりません
※	ワークショップの午前と午後の時間が開き過ぎているように思う。
※	最終日午後に参加者が少なくなることについて、プログラム編成の面から改善・解消できないでしょうか？(目玉企画やシンポジウムを最終日午後にするなど)。
※	午前は英語、午後は自由の方がいいかもしれません。
※	現状では最適の対応と思ったが、日本語を母国語としない研究者も同額の参加費を払っていることを考えると、英語化を急ぐべきという印象を持った
※	英語での質疑応答がうまく行かず、盛り上がらないワークショップがあった。議論が出来ないなら、無理に英語で行う必要はないと感じた。
※	午後からのワークショップでは、会場までの距離によって聴衆の集まり方に差ができたように思う。
※	ワークショップに採択されなかったらしい、夜のフォーラムが充実しているものもあって、良かったのですが、夜の終了時間がとても厳しく運用されていた用でしたのが、少し残念でした。
※	実際は英語で発表しているのにJ/Eと表示されていたのに海外ゲストが参加を見合わせていたワークショップがあった
※	日本語での講演について良い点:オーガナイザーとして、講演を依頼しやすい。悪い点:国際化・学術面では、英語での発表のみで良いと思う。日本語での発表を可にすると、学術的なレベルが低い研究者も、oralで発表するようになり、oral発表の質が下がると思う。
※	外国人が英語のセッションを目指して参加している様子が見られ、英語セッションが意識して配置されたのは良かったと思う
※	英語の試みは良いが、英語が得意な人だけが質問して英語が堪能でない人は黙ってしまう。ディスカッションが広がらない場合があるので、ある程度補助を入れてもらえると安心。

質問10. 年会の特別企画について、良かったと思うものにチェックしてください <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	高校生発表のスケジュールを工夫しても良いのではないか。中日の午後一番の時間帯にポスター会場で共に行うとか、もっと参加者が合間に立ち寄れるようにした方が良いと思う。
※	フォーラムには自由な企画がありよかった。今後も続けてほしい。
※	高校生発表がエスカレーターの踊り場で行われていたが、部屋を設けてあげるべきだと思った。また、学会員の参加が少なかったようなので、強制的にでも10名ほどは参加してコメントしてあげると良いと思う。せっかく学会で研究発表しているのに、高校生と関係者だけしか集まらないのは寂しい。とくに優れた演題は、関連するワークショップなどに採択するのも良いかもしれない
※	高校生発表は不要では？高校生が研究発表できる機会は他にもあるし、平日にやる以上発表者以外の高校生は参加できないし、あまり意味があるとは思えない。
※	バイオ燃料電池の夜のセッションが面白かった。
※	九州大学のとあるラボの卒業生のその後、みたいな企画があったが、あぁいったリアルなキャリアパスの道しるべとなるような優れたキャリアパス企画が、かなり求められているのではないのでしょうか。工夫をすれば面白い企画が生まれそうです。
※	いずれにも参加していない
※	高校生の発表は聞いていないが、このような機会を設けることはいいと思う。
※	あまりに盛りだくさんで見落とししました。面白い企画が多かったと思いますが、多数の並行開催のため聴講できなかったのが残念です。
※	参加していないのでコメントなし
※	研究室の選び方
※	高校生発表をより全員でエンカレッジできるように日程の真ん中に持ってきて良いかもしれません
※	高校生発表の時間と場所がこの企画を重要視していないことを示しているようで残念だった。

質問11. 企業展示会・バイオテクノロジーセミナーについて <複数回答可> (要望・その他)

回答者 番号	要望・その他記述
※	もっと参加人数を増やしてほしい
※	年々、参加企業の規模が縮小しているように思う。アジアからの新規出店に期待か？
※	くじにもれて、参加できなかった
※	名前を登録しなくても案内をして欲しい
※	景品にお金をかけすぎ(高価なものがあたる)のは本来の学会の趣旨には合わないのではないのでしょうか。年々そのような傾向があります。
※	展示会の企業の数も多く、とても有益でした。
※	グラビアアイドルはどうかと、、、海外ゲストを多く呼ぶならワールドスタンダードに。
※	ブースの配置はもう少し工夫しても良かった。
※	分子生物学会の展示は件数が多くて見応えがあります。主要なメーカーや商品はいつもこの学会でチェックしています。
※	これまで、通りでうまく運営されているかと思えます。
※	バイオテクノロジーセミナーが少ない。
※	参加していないのでコメントなし
※	なぜ、この会社がブースを出していない？というのがヒントかもしれません。意味がわからないかも。
※	事前参加登録で配布された名刺カードは便利であった。
※	企業展示会は勉強になります。ただ、ランチョンセミナーをやっていた企业提供が、ブースがなかったところがありました。ランチョンに出られなくて、話しを聞きたいなどができなかったので、連絡をとれるところ位はあったら良いかと思いました。
※	年々企業が力を入れていない感じが増している。ブースで技術的な説明がきちりできる体制をとっている企業のブース訪問は自分の研究に有益だった。スマホでアンケートをさせてデータ取りにいそんでいる印象を今回強く受けた。企業展示のブース配置がわかりにくかった。以前メインの入り口に大きな看板が出ていたように表示してほしいが、五十音順などで企業名からわかりやすく表示してほしい。ブース番号順ではわからない。看板はあったと聞いたが目には付かなかった。

質問12. ITシステム(WEBシステム・アプリ)についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	マイスケジュールの中でポスター発表と口頭発表が混在し、使いにくかった。完全に時間順に並べてくれれば使いやすくなると思う。ポスター会場の地図の中でマイスケジュールに登録したポスターのマークが見難かった。もっと目立つ色にしてほしい。演題番号も表示されるとさらに便利だと思う。
※	シンポジウムとワークショップはどのセッションに参加しているか自覚があるので問題ないが、ポスターに関してはその自覚がないので探す際にセッションを特定するステップで戸惑った。
※	マイスケジュールに登録した演題の要旨にダイレクトにアクセスできると良かったと思います。
※	使っていない。ガラ携だから。
※	会場ナビ機能は必要だが、今回の会場はわかりやすく、使用することがなかった。会場ナビ機能は、一步踏み込んで、マイスケジュールと連動させた、経路表示機能があっても良いのではないかと。時刻表アプリのような感じで、移動時間も考慮したものになると良い。
※	ガラケーユーザーがいることに配慮すべきだ
※	企業の方から、「分子生物学会は出展費用が高い割に、誰も物を買ってくれないので、出展したくない。」という話を聞きました。
※	会場の配置に関する情報が貧弱だった。出来れば、発表会場をクリックすると地図上に表示されるような工夫が欲しい。
※	使い方の動画とかを上げてもらえると弱者に優しいと思います。
※	スマホを持っていないので、ITシステムを十分活用できなかった。
※	シンプルなものでも充分。「SNSなどで発信・交流することが研究者にとって必須！」などは全く思わない。オピニオンリーダーを自認する人以外がSNSで発信することはむしろ滑稽。
※	アプリの動作がやや遅いように思われました。
※	重くないように動作の軽いアプリにして欲しい
※	気になった演題をどんどんブックマークできるほうが、マイスケジュールより便利だと思います。自分と似たテーマなど、検索機能が大変便利でした。あと、抄録内容を共有(書き出し)できるのが非常に便利でした。総じて素晴らしいアプリだったと思います。
※	システムとしてはかなり便利で役に立ちました。
※	とても使いやすいと思います。とてもいい。
※	全体的にとても使いやすくて良かったです。演題登録から当日のアプリまで、ユーザーにむけて非常に親切につくられていると思います。スマホだけで(冊子なしで)会場をまわることができましたし、スケジュール管理も楽でした。
※	スマホアプリ版(Android OS)で、画面のスクロール(スワイプ)がしづらく、使いにくかった
※	メモが保存されていないことがある。保存も自動にされた方が良い。
※	要旨集がいなくなり、ここ5年ほど身軽に移動できてとてもありがたいです。細かい機能まで必要かどうかは、コストがどの程度かかるのかにもよると思います。要旨集をPDFにすると参加費を払っていない人にも簡単にばらまかれてしまうので難しいのかもしれませんが。
※	演題メモをマイスケジュールと一緒にPDF出力できるようにして欲しい。
※	お勧めボタンや、twitterのように反応が流れていく仕様があるとよかった
※	重たい印刷媒体の冊子を持ち歩くより、スマートフォンで要旨をすぐに見れるのは非常に良かった。時代の流れだと思うので、今後も続けて欲しい。
※	会場内のWiFi環境がこれまで以上に向上していたことが評価できる。
※	プログラム全部をpdfファイルでダウンロードしたが、文字検索できず、不便だった
※	使い方に慣れるまで少し手間取ってしまったが、アプリがあるのは助かった。ただ、同じ時間帯の興味ある演題を複数お気に入りに入れておいたため、小さいスマホ画面では非常にわかりにくくなってしまった。全体を見渡せる画面があると助かります。
※	まあまあだった。
※	スマホを持っていないので、iPadを使いましたが、両方を持っていない人は非常に困ったと思う。ただ、スマホを持っていないのは私だけの気はしますが。
※	プログラム検索が使いにくかった。機能を使い切れていないのかもしれないが、見ていたところに戻れなくて、また検索することになる。
※	参加していないのでコメントなし
※	よい評判は聞いていたが、事前に習熟する時間的余裕が石器人にはなかった。
※	使わなかった。多少重いにしても、本を持っていけば事足りた。
※	次年度も是非継続してほしい。他の学会でも導入すべきと思われる。
※	アプリの公開日が遅かったため、飛行機やホテルの予約などの予定が立てにくかった。
※	よくできていると思います。海外の大型学会でもそうですが、最初はいろいろと不満がありますが地道に改善していくと数年で欠かせないものになりますので、続けていってください。
※	ITシステムに高額投資をしているならば、その分海外招聘の補助や若手のアワードに振り分けたほうが、多くの研究者のモチベーションがある。
※	その時間にやっている演題がわかるのはとても良かった。
※	海外演者から英語版は使いにくかったと意見を頂きました。
※	抄録確認からpdf作成に時間がかかる。アプリの抄録にメモ機能があるが、ワープロ入力だけなので使いにくい。メモ機能にタブレットでのペン入力、手書き入力もできるようにしてほしい。

質問13. ITシステム（WEBシステムまたはアプリ）・年会プログラム集（冊子版）・ポケット判プログラム（会場受付等に置いていたミニサイズの折り畳んだ紙製のもの）の使用状況について <複数回答可>（その他）

回答者番号	その他記述
※	ポケット版の字がもう少し大きいとよかった。最初会場地図を把握するのに役だった。
※	もう少しだけ文字を大きくしてほしい。
※	事前のスケジュール調整には冊子版が使いやすく、要約を見るためにはITシステムが必須で、会期中は冊子版とITシステム（アプリのみ）を併用した。ポケット版プログラムは使わなかった。
※	要旨込みの分厚い冊子体が一番読みやすく検索もしやすいので、アプリを廃止しても良いので復活してほしい。
※	ITシステムの情報開示から学会開催までの期間が短かったので、冊子プログラムは必要と感じた。
※	ポケット版の必要性を感じない。
※	事前の全演題を通し見しながらのスケジュール組みは冊子の方が早いので、冊子版かアプリかではなく、連携を考えても良いように思う。例えば、冊子版の各ページにQRコードを入れ、各演題タイトルの前にチェックボックスを付し、アプリに付したスキャン機能で撮影することで、マイスケジュールに取り込んだり、会場図にマーキングする（日程選択表示）。
※	会場での本人認証もQRコードを利用すれば十分だと思います。（参加証の必要性を感じません）。
※	完全にオンライン化して良いと思います。
※	記録として、冊子のプログラムは是非残したい。
※	あらかじめ書き込みをするので、会場に来て初めて入手できるものは使いません。ITは会期前の検索に欠かせません。
※	冊子版は小さくないでほしい。
※	経費が掛かるのであれば、ITシステムのみという選択もありかと思いました。
※	冊子版は重要だと思います。
※	経費削減につながるのであれば、紙媒体は廃止してほしい。
※	紙冊子は会員でも不要な人も多いため、必要な人のみ有料制にしてほしい。自分は一切使わなかったので資源も費用ももったいなく感じた。
※	ポケット版は残して欲しいが、冊子版はなくてもよいのでは。
※	冊子はあるに超したことはないが、予算如何ではなくすることも仕方ないかも知れない。
※	私自身は紙媒体は不要と感じましたが、必要な方もいると思うので完全になくさなくても良いかと思いました。強制的に全員に紙冊子をくばるのではなく、たとえば、紙をなくして少し参加費を下げた希望者だけ紙冊子を購入してもらおうとかでも良いのかも？
※	冊子版はメモ用途で使った
※	特にポスターのテーマについては、移動中の飛行機の中でチェックすることが多く、ITシステムだとネットワークが十分には使えません。私には冊子判のプログラムとITシステムの併用がよくなっています。会場に配られたポケット版は冊子判と重複しており紙の無駄と思いました。
※	冊子版は不要。紙、輸送費の無駄。希望者が購入できるようにしてほしい。
※	ITシステムと冊子番を併用した。
※	印刷体は不要
※	冊子版のみを使用
※	Webシステム・アプリは今後、必須だと思いますが、最初もたてしてしまったので、ポケット版プログラムが非常に助かりました。冊子版のプログラム集は持ってゆき初日は使ったのですが、2日目頃からアプリに慣れたので使わなくなりました。
※	ポケット版プログラムは、老眼のせいで、文字が小さく殆ど使えなかった。
※	会場では、Free WiFiではなく、セキュリティのかかったネットワークの使用ができるようにしてほしい。
※	参加していないのでコメントなし
※	会場が多数の施設に渡っていたので、会場案内図をもっとわかりやすくしてもらえるとより良かった。会場にたどり着かず、聞くのを諦めたセッションが数個あった。
※	未参加ですが、いつもはアプリを使用しています
※	チェックを入れた人が、ハンドルネームとはいえ、発表者にわかる→人数を比べ合う→多い少ないが話題、なんてことは正常でしょうか？俺のテーマはつまらないんだ、と（院生のような）発表者に感じさせるのは、その後のモチベーションに影響します。人が集まっているからと言って、注目の発表ということでもないでしょう。「いいね」の数を競うようで下品です。
※	無いと事前に対策が立てられない。継続を希望する。
※	結局ほとんど使いませんが、不要とも思いません。ITシステムより検索しやすい場合もありました。また、検索システムは、検索しないものはあまり見ないことになってしまいます。とくに若い方には色々なところを見て頂きたいと思いますので、そのようなことには冊子版が役に立つのではと思います。
※	ポケット版プログラムは字が小さすぎて見えないのでA4判に戻してほしい。
※	出張手続きの関係で、冊子版はなくなると困る。また、何年後かに情報を調べる際に、ITシステムだとアクセスを探すのが手間になる。ITシステムと冊子版の併用が、一番ありがたい。
※	冊子は可能ならば、もっと簡素化しても良いかもしれない。

質問14. 本年会の開催形式(単独開催・他学会協賛形式による連携※)について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	なぜ生態学会だけと思った。
※	分子生物学会と生化学会は、分野もかなりオーバーラップしているので、統合した方がよい。
※	参加していないので分からない。
※	ポスターが非常に多く、行き来するのも困難なほどに混乱状態なので合同開催は基本的に不同意です。しかし昨今の各学会員数の減少などで単独開催が難しい場合がある事もわかります。ですが、会員数の少ない学会は大学の講堂を利用するなど規模に合わせて開催し、他の学会への呼びかけで参加・発表を促すなどして交流を行うのが良いと思いました。
※	今後も不定期で良いので、他の類似学会と共催を行って欲しい。交通事情が大変不便な場所から参加しているので、共催で会期が長いほうが、とんぼ返りのようにならなくて良い。じっくりと学会に参加し、議論をしたり、新知見を得たりなどができる。
※	分子生物学会会員としてWSに参加したが良かったです。
※	生態学会の方の話も聞いたが、別の視点でサイエンスを知ることができて良かった。来年は別の学会とのコラボを期待します。
※	なぜ、生態学会だけなのでしょうか？
※	バトルが非常に面白かった。
※	自分の研究分野とは関連は少なかった。
※	生態学会の方の話も聞いたが、別の視点でサイエンスを知ることができて良かった。来年は別の学会とのコラボを期待します。
※	他学会との連携は今後も多様な形式で継続することが望ましい。研究分野の発展には異分野融合や境界領域が重要。
※	企画として特徴があり、今後継続してもよいと思う。今年のような対談形式を挟むのであれば、ワークショップ枠よりもフォーラム枠の方が相応しかったのかもしれない。
※	なぜ生態学会なのか？他にも分子生物学会にもっと近い学会はたくさんあるのに。

質問15-3. 今後の年会の開催形式についてお聞きます <複数回答可> (協賛形式の連携が可能な学会)

回答者 番号	協賛形式の連携が可能な学会記述
※	生物物理学会生化学会細胞生物学会
※	生化学会との合同で構わない。学会出張が1回にまとまるので、経費節約になる。
※	生化学、細胞生物学、生物物理学、発生生物学など。
※	日本生化学会
※	遺伝学会、進化学会。
※	今特に思いつかないが、できるだけ離れた分野との連携が面白いと思う。
※	生化学会、細胞生物学会、発生生物学会など。
※	生物物理学会細胞生物学会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	生化学会との連携が良い。
※	今特に思いつかないが、できるだけ離れた分野との連携が面白いと思う。
※	進化学会、アジア諸国の分子生物学会系の学会
※	米国のフェデレーションのように広範な生命科学の共同学会にすべきです。
※	それぞれの学会の年会長同士が、ツアーの中であれば、いくつもの選択肢があるのではないか。
※	協賛形式ではないが、例えば血管生物医学会との共同開催のシンポジウムはすでに3回連続の開催となり、同学会会員にとって分子生物学会参加への大きなモチベーションとなっているため、是非継続してほしい。

質問15-6. 今後の年会の開催形式についてお聞きします <複数回答可> (合同開催が可能な学会)

回答者 番号	合同開催が可能な学会記述
※	学会が乱立しているので、積極的に合同開催を進めて、年間当たりの大会数を減らしてほしい。
※	タンパク質科学会
※	生物物理学会生化学会細胞生物学会
※	細菌学会
※	国際学会との共催が盛り上がると思います。
※	あればなんでもいい
※	日本農芸化学会
※	生物物理学会細胞生物学会
※	それぞれの学会の年会長同士が、ツアーの中であれば、いくつもの選択肢があるのではないか。
※	日本癌学会日本放射線影響学会日本免疫学会

質問15-8. 今後の年会の開催形式についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	単独開催にも他学会協賛にも合同開催にも利点もあれば欠点もあるので、現在のように年ごとに変えるのも試行するのも良いと思う。
※	分子生物学会と生化学会の会員は重複が多い傾向があるので、合同開催だと生化学会の存在意義が薄れるように感じる。
※	会員がオーバーラップしている学会が多すぎるので、日本分子生物学会が主体となって他の学会との統合を進めて頂けると良いと思います。
※	規模としては単独でも十分に大きいので、合同にしてさらに演題が増えるのはどうかと思う。
※	生化学会と分子生物学会(もしかすると細胞生物学会も)は合体すべきである。いろんな障害や不都合があることは承知しているが、日本の科学の将来にとっては必要と思う。現在の執行部の人は、数十年後の若手研究者のために、検討をして欲しい。
※	どの学会とコンビを組みたいのかさっぱりわからない。
※	ConBio2017では、日本国内の著名な先生方の特別公演があり、素晴らしかったです。海外の偉い先生の講演もよいですが、国内にノーベル賞・ラスカー賞・ガードナー国際賞などを受賞するレベルの研究者が何人もおられることを考えると、海外ばかりを評価するものどうかという気がしました。
※	学生数も大学院生数も減っているなか、分子生物学会と生化学会を合同開催とし、横の広がりを広げていくべきと思う。
※	毎年同時開催や連携する必要はないと思う。
※	横浜の生化学会も出たが、それと比べると、福岡の分子生物学会の方がかなり盛況だったので、その違いに驚いた。ただ、若い学生はいずれも少なかったような気もした。
※	他学会で役員をしていますが、分子生物学会と合同開催すると会員を奪われる懸念があって、踏み切れないようです。今回の合同開催は面白かったのですが、他学会でも一般化できるかどうかは未知数です。
※	その時その時で、合同開催や一部の連携があれば良いと思う。
※	生命科学系では分子生物学会の規模が突出して大きくなったため、他学会と対等の立場で合同学会とするのはテクニカルに困難だと感じます。また、その時々注目の分野・新興分野を考慮して連携する学会を検討するべきであり、相手学会を固定化しないことが望ましい。
※	分子生物学会年会の組織委員会が主体となって企画するのであれば、年ごとに様々なスタイルがあってもよい。年会長や組織委員会はボランティアとして年を切り盛りして下さるわけなので、分子生物学会年会の組織委員会がやりやすいような条件は科してはならない。年会長や組織委員会のメンバーは(当然のことながら)毎年変わるので、特定の学会との合同開催を固定できるはずはないし、してはならない。
※	協賛形式ではないが、例えば血管生物医学会との共同開催のシンポジウムはすでに3回連続の開催となり、同学会会員にとって分子生物学会参加への大きなモチベーションとなっているため、是非継続してほしい。
※	合同学会にするとただでさえ重複しているシンポジウム等がますます聞けなくなる。弊害が多いので単独開催すべきである。
※	分生も生化学も会員がかぶっているのならば、合同開催とし、企業からの協賛金を集めやすくするのが良いように思う。
※	国際シンポジウムへの経済的支援は、旅費やscholarshipには足りない額でしたが、個人収入とする選択肢があったのは素晴らしいと思いました。日本のスタンダードをおしつけることは世界から参加される招待講演者をもてなすことと相反することも多く、自由度が高くなったと思います。
※	発生学会や細胞生物学会。ただし既に大きすぎるので単独開催でいい。

質問16. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者番号	意見記述
※	特になし。
※	ポスターのスペース、パネルの間隔、日本の学会は狭すぎます。とっともつとゆつたりとしてほしい。
※	ポスター会場が遠くて行き来するのが大変でした。分子ぐらいの大きな学会になると会場を探すのが大変だと思うので、もう、開催場所を便利なところに固定しても良いくらいだと思います。屋台やサンドイッチ販売などの配慮があったのは良かったです。
※	高分子学会のような、親和性の可能性がありそうな素材分野の学会とのリンクがあっても良いかも知れないと感じます。蛋白質は、細胞内だけで利用するものだという固定観念を取り払えば、もっといろいろな可能性が開けていくように思いますので。
※	むりやり英語デイを作らないと国際化は進まないんでしょうか？
※	横浜、京都、名古屋のように、バスに乗らなくて済む会場で行うべき(神戸はポートライナーのキャパが小さいためバスに準じる)。
※	無理に英語でやる必要はないと思われる。論文発信はもちろん英語でやるべきだが、日本人同士が主体となるような学会とする議論は日本語でやるべき。英語のレベルが低くて、辟易するので。日本語的な発想で行うオリジナリティの高いサイエンスを展開すべき。
※	期間が長い
※	今回のようにワークショップが多めの数に設定されている方が、興味深いものに出会いやすい。
※	美味しい昼食をいただける港に付随した食堂などへの誘導があると良いと思いました。若い学生さんが充実して参加できるように、モデルコースなどの誘導も必要と思いました。福岡は食が豊かなので、横浜より良いと思います。定期的に福岡もルーチンに入れてください。
※	スケジュールが慌ただしい気がした。もう少し休憩時間を入れ、研究者同士の交流を深める場と時間があると有難い。
※	分子生物学会は「今の流行はこれ！」「これからの時代はこれ！」のようなノリが強い学会であると思う。それ自体が悪いとか、変えて欲しいとかいうことではないが、若者には「流行にのるだけでは良い研究はできない」という一面も見せて欲しい。
※	余談ですが、福岡県／市に働きかけて会場周囲をもっと便利にしてください。交通、ビジネスホテルの数、食事、すべて不満でした。
※	英語のセッションを徐々に増やしていくべきだと考えます。
※	周知にもかかわらずあからさまに口頭発表のスライドの写真を撮影するひとが居たので、スタッフの方が彼らを注意していただきたいと感じました。
※	今回の学会のポスターはかなり抵抗があった。もう少し品格のあるポスターにしてほしい。学会ポスターを貼って恥ずかしくないようなものにしてほしい。
※	参加人数を想定して運営をされたのでしょうか？・休憩スペースが足りない。・近場での昼食を買える場所が少ないため、どのお店も激混み。・日本語を母国語としない方々が昼食ができる(料理の内容が理解できる)場所がなくて彷徨っていた。・ポスターディスカッサー制を売りにした割には、時間通りに始まらなかった。
※	多忙な中を手弁当で運営に走られた組織委員会の先生方に感謝申し上げます
※	今回は、コアな分子生物学に加えて、発生・老化・神経・代謝など広範囲な生命科学の演題があった点が良かった。分子生物学会は、「分子を扱う広範囲の生命科学研究者が集う学会」として貴重な場だと思いますので、今後も発生生物学など広い分野の演題を集めるようにしてほしいです。また、英語デーは1日のみならよい試みだと思いましたが、これ以上は増やさないで欲しいです。
※	屋台が出ていて楽しかった。ポスターのデザインがよかった。
※	昼食の選択肢が限られている中、最終日にポスター会場2Fで屋台企画がなくなったのは非常に残念でした。
※	言語がJ/Eとなっていたセッションの多くが、海外から参加した研究者のみが英語での発表、日本からの参加者が日本語で発表となりほぼ日本語での発表であったのが残念だった。
※	あいた時間に作業するスペースを十分に確保してほしい。
※	とても勉強になりましたし、新しい知り合いも増え、旧知の知人とも会え、全般的に大変素晴らしい学会でした。1つ言うのであれば、会場近辺にランチを食べる店が少なく、ランチマップがあったら良かったです。
※	ワークショップ等で入れない会場があったり、反対にガラガラで空いていた会場があったので、混むことが予想されるテーマには広い会場を当ててほしかった。
※	久しぶりの福岡開催が良かった。今後も、横浜・神戸以外での開催が出来れば良いと感じた。
※	国際化は別の枠組みでやれば良いのでは。
※	Plenary lectureが無かったことで、年会に緊張感とメッセージ性が欠けていた。Plenary lectureは、学術集会の目標や大会長の意図を示すものであり、参加者を増やす企画でもあるので、今後は特別講演を必ず入れた方が良いと思う。
※	非常にごった返した状況なので、ポスターの数も絞った方が良いかもしれません。演題募集段階で各テーマ毎にポスター採択数、その中からワークショップへの採択数の概数を示して、演題が決定後、募集数と最終採択数を公表するような形も検討して頂けたらと思います。
※	非常に良くオーガナイズされていたと思います。ただ、駅から会場への交通の便があまり良くなかったこと、会場が分散して歩く移動距離が大きかったことが、少し不満。
※	ワークショップの会場が狭かった。ポスター会場とワークショップ会場が離れていて、天候の悪い中での移動はしんどく感じた。
※	2日間の参加でしたがセッション会場はどこも盛況でポスター会場も賑わって活力を感じた。日本で唯一最大の(?)生命科学の祭典として幅広い分野を活性化させる場として発展してほしいです。
※	今回は英語でのポスター発表者が多いように感じてとてもよかったです。今後も外国人研究者を増やして、若い研究者が英語での議論を楽しめる環境を提供していただけると嬉しいです。
※	お疲れさまでした博多大会は、とても良かったです。

質問16. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者番号	意見記述
※	これは、特にシンポジウムやワークショップを見て感じるのですが、10年前と比べて、特に若手の質問・討議が少なくなってきたような気が致します。これは、前述したシンポジウム、ワークショップの数およびテーマの拡散も1つの原因かと思われました。
※	海外からのゲストより、「満足だった」との言葉をいただきました。特に携帯電話で使えるアプリは非常に有用であったようです。私自身も有効活用できました。ありがとうございました。
※	発表の英語化は大切なので、今後も積極的に進めていったほうが良いと感じた。
※	開催時期を8月9月 3月などにしてほしい。
※	とても素晴らしい会であったが、半分以上は日本語で、国際化がまだまだだと痛感しました。全て英語にして、タイトルから日本を取り、大規模な国際学会にしてしまうのが良いと思います
※	国際化は喫緊の課題であるが、専門性の高い学会では英語開催が良いが、分生の英語開催に関しては賛同しかねる。分生は若い学生の入門学会という位置づけでもとらえている。特に英語が不得手な学生にもすそ野を広げるという効果もあると考えていただければ。また、専門以外のセッションに行ける数少ない機会でもある。その際は日本語のほうがわかり易い。
※	久々の福岡だったので期待していたのですががっかりです。昼食環境、交通環境、全てにおいて神戸と横浜より数段不便でした。二度と開催しないでください。
※	あふれている会場と、閑散とした会場が並行していることがありました。入場者数の見積りは難しいと思いますが、事前予約を受付けるなどして容量調整をはかるか、当日調整ができればなあ、と感じました。あと、あるランチョンで出てきたふるさと納税ならぬ「アカデミック納税」ぜひ実現して欲しいです。
※	今回の会場は、近くに飲食店が少なく問題があった。
※	若手、女性の講演者およびチェアが以前より増えたことは大変良かったと思います。女性の講演者がどのセッションにおいても、30%以上くらいになると理想かとおもいます。
※	福岡の会場は交通機関が遠く不便。
※	ポスター会場が遠い。会場に入りきれない時は、モニターを多めに出すとかして対応して欲しい。
※	英語のセッションの討議の時間で、英語での質問がうまくできずに無駄に時間がかかっていました。もちろん、英語のセッションなので英語で質問するのが標準と思いますが、日本語での質問もありとし、座長もしくは演者が英訳するということがあっても良いかと思えます。
※	留学生の姿も目立ち、流れかもしれませんが、母国語で一定の水準の議論ができる学会が、ほぼここだけになっていたので、口頭発表の全英語化の決定は、個人的には残念です。
※	福岡での開催は大成功だったと思います。神戸・東京／横浜以外の選択肢として、今後も福岡を年会会場のローテーションに加えることをぜひご検討ください。
※	Q6の回答にも記載したが、MBSJ自体が大きくなりすぎて、ここ数年は年会自体が冗長になっていると感じる。一方、大きい学会であるにもかかわらず、日本の生物学関連学会が生化学、遺伝学、細胞生物学、生態学、等々、バラバラになっていて、政府等への発言権も限られてしまっていると思う。すなわち、大きいことの欠点ばかりが目立ち、利点が失われている。MBSJは発展的解散を行い、日本の生物学関連学会が集約されるようなステージに来たのではないか？大きな学会と、ちいさな研究集会の2本立てが、目指すべき方向であると思う。
※	ポスター会場でビール(など)無料がいい(または参加証に引換券(2杯/日など)を添付)
※	日本人による英語講演は、ほとんどの場合、低い英語力なのに無理に早口で、抑揚(アクセント)なく話すため、各単語が独立せず複数音が融合した発音となり、聞き取りが非常に困難。また、単語のアクセント位置が高い確率で間違っている為、聞いている内にこちらまで調子がおかしくなってくる。更に、日本人による英語での質疑応答は、何を言いたいのか、訳が分からない状況。日本分子生物学会として、対策が必要。例えば、年会案内に「英語講演は、ゆっくり話す、あるいは抑揚(アクセント)を確実に付けることにより、聴衆が理解し易くなるよう努める」といったような発表者への案内を徹底する等。
※	会期が長く、体力的にも経済的にも負荷が大きいです。今回も初日から参加しようとする前日入りする必要があり、4泊5日となりました(合同開催にするとさらに長くなる)。演題数を無視して言えば、2泊3日か3泊4日程度が妥当だと思います。
※	託児室を利用したが、ホールの楽屋であったため、窓の小さな閉鎖的な部屋で、小部屋で机を寄せているため活動スペースが狭く、その割に子供の数が多すぎて、息の詰まるような環境であった。他の学会でも託児室を利用したことがあったが、今回が最も託児環境が悪かった。そのため、子供が「早く迎えに来て欲しい」と懇願し、結局、学会を早々に切り上げて迎えに行くことになってしまった。分子生物学会は、託児を利用する人が多いので、託児室は楽屋ではなく、それなりのスペースのある部屋を割り振り、託児委託会社に任せるのではなく、適した環境を提供できるようにもう少し考慮して欲しい。
※	ConBio2017のときだったと思いますが、聞き逃したいくつかの講演についてアーカイブでビデオを見られたのがよかったので、今後検討して頂ければと思います。
※	福岡は食べ物も美味しく、大変素晴らしい会でした。ありがとうございました。
※	用紙の締め切りの時間は、海外からの申請を考量して、締め切り時間をもっと詳しく表記する方がいい。アメリカの国際学会の場合、『東部時間の17時』などの時差を考慮した時間設定がしてある。次回の記述には、日本時間等の時差を考慮した記載を望む。
※	生化学会との合併を考える時期に来ている。
※	分子生物学会の参加者は若く、かつ、多様な分野が集まる会であるため、若手が新たな分野を勉強し、かつ自由に討論できるように、一般発表やワークショップは日本語であって欲しい。シンポジウムは英語が望ましいと思いつつも、そう思います。

質問16. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者番号	意見記述
※	完全英語化への取り組みは支持するが、一方で日本語だからこそ多様な内容を1つのワークショップに詰め込むことが可能であることも知って欲しい。近年は学際融合研究が盛んに行われているので、背景の詳しいところを英語での説明だと不十分になったり、やはり修士とかの若い学生さんも積極的に口頭発表できるために、日本語のセッションを認めても良いと思う。
※	会場の外で休んでいる方々が目についた。会場を歩き回って話を聞く程度の体力は研究者として必須である。欧米、中国に研究で負けてしまうのは、英語力ではなく体力がないからでは。
※	福岡というロケーションはよかったです。巨大会でなかなか難しいとは思いますが、横浜、神戸以外でも開催できると良いですね。おつかれさまでした。
※	ワークショップの枠が多い方がやりがいがあります。自分たちで会を運営している感じがして、やる気も醸成され参加する意義も増します。
※	使用言語を英語とするのであれば、海外などから外国人講演者を積極的に招聘するべきだ。これは運営側の責務だと思う。それなしに、日本人を相手した英語でのプレゼンを推進することは無意味である。
※	会場周辺に宿泊施設が少なく不便であった。大部分の参加者は博多駅または天神周辺に宿泊をとっていたが、博多駅からは20分ほどもかかりたいへん不便を感じた。会場の設定には慎重にしていきたい。
※	学会が、日本の科学の発展にどのように寄与していくか、ということはとても重要な課題だと思います。そのために、色々な試みをして頂いて、とても感謝しております。どのような企画がうまくいったかというような内容も、他の学会と広く共有していけると良いのではと思います。
※	海外演者の旅費・宿泊施設のサポートありがとうございました。私共が企画しましたワークショップでは、海外演者として若手の有名研究者を2名招聘しました。海外演者と日本演者およびその関係者との意見交換や交流を通じて、日本の研究者からとても有益だったと多くの声を頂きました。また、海外演者からは、日本の研究者と共同研究を進める切っ掛けを得たと喜びの声を頂いております。この度は、ご支援頂きましたこと、心より感謝申し上げます。
※	次回の全シンポジウム、ワークショップの英語化にはに反対である。理由は、英語が苦手な学生や研究者の理解が低下することと、真つ当な議論ができなくなるからである。今回のように、英語と日本語のセッションを設ける法が好ましい。
※	今回の会場はホテルからのアクセスがイマイチだった。
※	ポスター会場に早めに入って人が少ない時にじっくり見て回ろうと考えていたが、貼り出しのための準備時間帯を過ぎても貼ってない空きスペースが多く、如何なものかと感じた。また、日程表を見る限り、ポスターは夕方まで貼ってあると思っていたが、ポスターのディスカッションタイム終了を知らせるアナウンスで、同時に「剥がしてください」ともアナウンスがあり、皆さん、さっさと剥がしていらっやいましたね。日帰り参加などの都合もあるかと思うが、ポスターの掲示時間を守るように指導していただきたいものです。
※	研究倫理フォーラムは、2015年以降、無難な話題をテーマにして逃げることを続けている。このような状態が続くのであれば、研究倫理フォーラムは辞めた方がいいのではないかと。そして、学会も解散した方がいいのではないかと。2020年の年会長はSTAP騒動の時に厳しい意見を表明した先生なので、2020年は期待している。
※	今回、ディスカッサーが現れなかったことには呆れた。このような人物が、優秀な研究者としてディスカッサーと考えられていることに疑問を感じる。
※	ポスター会場と講演会場との間の移動通路に板かシートを敷いていたが、デコボコして歩きにくく足をくじいた。シートがなかったらもっと歩きにくかったにかもしれないが、移動距離が結構あるのにボコボコなのでもっと疲れた。きちんと凹凸がないように整備すべき。工事中とのことだったが、イベントがあるのに会場の駐車場が全て使用できないのは問題だ。実際、工事車両や建築資材が置かれることもなく、ただ空き地だった。一部でも開放すべきだった。駐車場として使用しないのなら通路を遠回りさせず直進で移動できるようにして欲しかった。